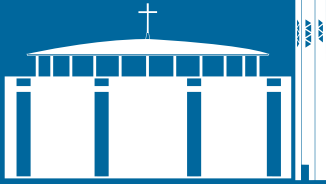


8・9月



カトリック麹町教会

MAGIS

マジス = 「より、もっと、さらに」

2026年度教会テーマ

ひとつになろう キリストのうちに 〜ともに歩む教会へ〜
Journeying Together as One Community to Jesus

神を信頼し、神に委ねて霊性を深める

イエズス会司祭 山内 豊



皆さんは、どの季節が一番好きでしょうか。それぞれの季節には、その季節ならではの味わいがあります。日本は四季に恵まれ、一年を通して自然の移ろいを楽しむことができます。その中でも、私が一番好きな季節は夏です。なぜなら、夏は生命がふれる季節だからです。樹木は青々と茂り、セミの鳴き声は雨のように降り注ぎます。世界が命に満ちていること、そして主の創造の豊かさに、私は胸を打たれます。

一方、人の一生を四季になぞらえて表現することもあります。そのように考えると、私は今、夏の終わりに秋へと移りゆく時にいるように思います。夏の暑さが和らぎ、夕暮れに寂しさが宿り始めるころ、人はふと立ち止まり、自らの歩みを振り返ります。カール・グスタフ・ユングは、中年期を「人生の正午」になぞらえました。こちらには人生を一日にたとえた表現ですが、趣旨は同じです。太陽が正午を過ぎると西へ傾いていくように、中年期を迎えると、人生の歩む方向も変わっていくようです。それまで重要だったものが色あせて感じられ、あらためて人生の意味や自分自身のあり方を探し求めるようになります。いわゆる「中年の危機」です。このような危機に直面すると、人生の夏がいかにか輝かしく、希望に満ちた時期であったかに気づかれます。高志を抱き、成長していく自分に心を躍らせ、人生において何かを勝ち取れるような期待に満ちている季節です。しか

し、秋を迎えるころには、その生命力や自分自身への期待にも、少しずつ陰りが見え始めます。等身大の自分が見えてきて、自分は特別な人間ではないことを思い知らされ、さまざまな衰えにも向き合わなければなりません。「これまで何年生きてきたか」という視点から、「あと何年生きられるだろうか」という視点へと変わっていきます。否応なく価値観の転換を迫られるのが、この時期なのです。

中年期までは何かを求め、そのために、それ以外のものを切り捨てていく時期だと言われることがあります。たとえば、強さを求めるなら弱さを遠ざけ、大人になろうとするなら、子どもである自分を切り捨ててしまふ。そのようにして、求めるものを手に入れていきます。しかし中年期以降は、これまで切り捨ててきたものを、もう一度拾い直す時期でもあります。自分の弱さを改めて見つめ、心の中にいる子どもの自分にも目を向けます。そして、それらを排除するのではなく、自分の一部として受け入れ、統合していくのです。

このような中年期に、宗教的な問いが重要になってくるのも不思議ではありません。「自分の人生にはどのような意味があるのか」「死をどのように受け止めればいいのか」といった問いを、若いころよりも切実に、現実感をもって問い始めるからです。そこでは、自分の力だけで人生を切り開こうとすることよりも、神を信頼し、神に委ねることが、いっそう大切になっていきます。中年期以降のキリスト者には、これまでの歩みを振り返りながら、信仰を通して自分の弱さや限界を受け入れ、霊性をさらに深めて生きていくことが求められているのではないのでしょうか。

教会報 MAGIS 8 月 9 月合併号

† イエズス会岐阜部修道院	P2~3
† 教会行事	P4~5
† 聖フランシスコ年	P5
† (教会活動連絡会便り) 宣教と祈りの連絡会	P6
† Family of St. Ignatius ~インドネシア共同体から~	P7

【8月の共同祈願】

「ごく単純な愛の力によって平和をもたらす」

という永井 隆博士の言葉に励まされ、

私たちが隣人愛に満ちた

思いと行動がとれますように。

【9月の共同祈願】

神さまが私たちにお与えくださった

この地球の自然と平和を守るために、

老いも若きも手を携えて^{たずさ}それぞれの場で

使命を果たしていくことができますように。



▲左より、ボニー神父、佐久間管区長、山内神父、ソアレス神学生、ガラダ神父、柴田院長、オチョア神父、ジョディ副院長

8月初旬まで第三修練で

岐部共同体（岐部ホールの7・8階）は、ペトロ岐部（司祭叙階を目指し、インドのゴアからローマまで徒歩でたどり着いた不屈の精神の持ち主の福者）を修道院名にいただいています。

イエズス会岐部修道院

教会使徒職を支える共同生活

岐部修道院院長 柴田 潔神父

2010年、主に聖イグナチオ教会で司牧される神父様のために岐部修道院が設立されました。神父様方は教会の敷地内で共同生活を送り、日々、多くの信徒を導かれています。柴田神父様より、その様子を寄稿いただきました。

不在のグエン・タン・ニャー神父（44歳）を含めると、9名が共住しています。イエズス会日本管区本部からは佐久間管区長（74歳）、広報のマグト・エドワード・ジョディ神父（49歳）。聖イグナチオ教会で働いている会員としては、ハビエル・ガラダ神父（6月11日に95歳）、サトル・オチョア神父（12月5日で88歳）、柴田院長（62歳）、ボニー・ジェームス神父（50歳）、養成中の会員として、教会でのミサ・ゆるしの秘跡で奉仕しながら公認心理士の資格取得を目指し、上智大学で勉強中の山内豊神父（41歳）、アントニオ・マリオ・ダ・コスタ・ソアレス中間期生（32歳）が住んでいます。会社の年齢構成に比べると、随分と高いことをご理解いただけたらと思います。

います。

2025年4月から、第一土曜日18時ミサでは「司祭・修道者の召し出しを願う祈り」を唱えています。今、聖イグナチオ教会で働いている会員のため、そして、将来会員が現れるように、お祈りをよろしく願っています。

修道院というと、朝早い時間に皆が集まってミサを捧げているイメージがあるかもしれませんが、新コロナの影響で教会が閉鎖された期間以外は、それぞれがミサを捧げ、ミサに与っています。また、「使徒的活動を優先するため、*聖務日課の共唱をしないことがイエズス会の特徴です。聖務日課だけでなく、食事の間も使徒的活動優先。夜かなり遅くなることもありま

ります。

ある時期には、ミーティングの際、メンバーの自己紹介を動画撮影していました。目的は「会員同士が知り合える」ためです。それぞれ

会に招かれたのか？そして今、ここに集まっているのか？神さまの導きを感じます。

修道院のある日の会話から

*サツカーの話：ガラダ神父が「ワールドカップのサツカーが見られない」と教会事務

にばやいました。それを聞いた院長が、副院長のジョディ神父に「ワールドカップを見せてあげて」とお願いすると、「もう*2 DAZN（ダゾーン）に入っている。リモコンの使い方がわかれば…」とのことでした。リモコンの説明書を日本語と英語で作ってくれました。「サツカーがうまくいった神父は？」という話題では、ガラダ神父「ミゲル・メンディサル神父（聖イグナチオ教会でゆるしの秘跡を授けてくださった神父様）」

佐久間管区長「長束の修練院では狭い場所です。サッカーしていた。長い草が生えてボールが飛ばなかったから」（皆の話聞いていなかったかも）

オチョア神父「メンディサル神父が上手だった」

*7月5日に日本語能力試験N2（2級）の試験を終え

*1 聖務日課…1日を時間ごとに神に捧げる公式の祈り
*2 DAZN…スポーツ専門の動画配信サービス

たソアレス中間期生の話：「これまで応援のお祈りをありがとうございました（「ございまして」は過去形）。半分はできました」「もうお祈りはしなくていいの？」と突っ込まれる。「これから何をやるの？」「運転免許？」「いや、これから中間期」

主な役割分担

修道院長：その時の会員の健康状態を見守ること、教会で起きていることこのまめな共有。また、非常時の対応（ミサ当番の神父様が来ていない）など。趣味も兼ねてチームカブトムシの皆さんと、地下で難民支援のカブトムシの飼育（例年300匹）をしています。

副院長のジョディ神父：土・日曜の食事の用意、日用品の補充、クリスマス・復活祭の飾り付け、植栽の手入れなど幅広い。9月からローマ本部で広報の仕事を2年間されることが決まったので、役割配分をどうするかが急務の課題です。

ボニー神父：毎日の新聞・郵便物、車の管理（車検など）を担当しています。

食事については、月・火・

木・金は、昼食・夕食ともにまかないさんがとてもおいしく、健康・好み（ガラルダ神父の誕生日にはパエリア）、コストも考えて調理してくださり、私たちの健康を支えてくださっています。今年4月から、水曜日は、会員が当番で食事を用意しています。佐久間管区長はすき焼きを用意してくださったこともあり、毎週水曜日の食事に何が用意されるか？楽しみにしています。

現在作成中の管区計画では、教会で働く岐部共同体と上智大学で働くSJハウス共同体が四ツ谷ミッションセンター構想のなかでより緊密に協力することが、掲げられています。将来のことと、直近（その日）にどうすべきかという検討が同時進行で行われます。岐部共同体ではともに生活しながら、少ない人数で大きな教会を切り盛りしています。ガラルダ神父、オチョア神父ができるだけ長く、元気に教会で奉仕できるように、皆さまからの応援をどうかよろしくお願いいたします。



▲ワインで乾杯！



▲95歳のお誕生日おめでとうございます！



▲共同体ミサ後のミーティング



▲ガラルダ神父司式、共同体のために祈りを捧げる共同体ミサ



▲祝・スペイン優勝！
16年前に優勝した時の傘を持って



▲試験に向けて勉強中のソアレス神学生と信徒の先生



▲ある日の夕飯のメニュー。〈左上から時計回り〉グリーンサラダ、シュリンプアボカド春巻、メカジキのパン粉焼き、豚ひれ肉のチーズ焼き、きのこの味噌汁

教会行事

6月下旬から7月上旬に行われた主な教会行事をご紹介します。

●新侍者祝福式・更新式

7月12日(日)10時より柴田潔神父司式のもと執り行われました。祭壇を囲んで子ども席が設けられ、新たに7人の侍者が任命されました。柴田神父のお話

「侍者は神さまの近くで神父さんのお手伝いをしてくれます。聖イグナチオ教会では、初聖体を終えた小学校3年生から高校3年生までが侍者をしています。侍者になり、香部屋の使い方やミサの流れ、侍者服の着方やミサの後片付けを勉強しました。新しい侍者は、今日お話ししたカブトムシの卵やシスター重田尊子(援助修道会)が話された『小さな種』と同じで、これからどんどん成長します。ミサの中で神さまのために喜んで働けるように決意表明してもらいましょう」

新侍者に柴田神父から白い襟がかけられ、その後侍者更新式が行われました。

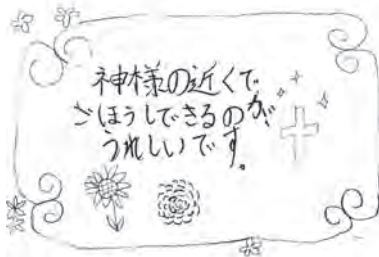
新侍者に豊かなお恵みがありますように！

侍者会のリーダーとミサでの動きや心がまえなどしっかりと準備して、毎年7月に新しい侍者がデビューします。ミサの中で新侍者の証し、白い襟を7名の新侍者が柴田神父から授与されました。それぞれから寄せられたメッセージをお届けします。これから、よろしくお願い致します。

ぼくは、侍者になるのがとても楽しみでした。
この祝福式を迎えるまでは、数々の練習をしてきました。その練習の成果を今日見せたいと思います。

これから毎月神父さまのよこでお手伝いできるのがたのしみです。お母さまずうと侍者をしていただくかんがえます。

Kai



神様のみこころにかなうように真心をこめて侍者をつとめます。

A.I.



これから、侍者としてたくさんミサもうけられることに感謝致します。一生懸命がんばります!!

OB

M.M.

きんちょうするけどみんなが楽しくなるミサをつくりたいです。よう来はじい会リーダーになりたいです。

侍者の練習が始まったばかりの頃は、ミサ中の動きや役割を覚えることに精一杯で、自由に侍者が務まるのが不安でしたが、こまごまとさんの練習を積み重ねてきたので、これからミサで侍者として奉仕できるのがとても楽しみです。



●新受洗者・転入者・改宗者オリエンテーション

当教会に新しく来られた45名を迎え、6月28日(日)10時ミサ後にヨセフホールで行われました。聖歌隊とともに「ガリラヤの風かおる丘で」を歌って始まりました。

高祖敏明主任司祭から「オリエンテーションは『方向づけ』という言葉があり、司祭方と信徒代表からメッセージが贈られました。その中で、ハビエル・ガルダ神父から、「何のために洗礼を受けたのか、それはキリストに結ばれるため。では、キリストに結ばれるとはどういうことか。祈り、生き方において、この質問に返事を作って下さい」との呼び掛けがあり、他の方々からも、これらの信仰生活を支える力強い言葉がけがありました。

参加者を積極的に募集している活動グループから、活動紹介がありました。「手芸部」「イグナチオ文庫」「壮年会」「美術部」「写真チーム」「聖歌隊」「受け皿」の7グループで、それぞれ人手不足を共通の悩みとする中で、興味があればぜひ活動に

参加してください、と熱心な勧誘が行われました。

各テーブルでの分かち合いは、自己紹介をして、信仰生活や教会活動についての疑問点を先輩信徒に質問しました。初めは緊張の表情も見られましたが、次第に笑顔の輪が広がっていき、教会でのつながりを築いていく一歩となりました。

最後に高祖神父への質問の時間があり、聖書を日々どのように読めばよいかとの問いには、「一番入りやすいのは福音書であり、マルコ福音書が導入としてはよい。聖書は私たちへの手紙であり、考え・悩みへのヒントがいろいろある。同じものを読んでいても状況によって違うメッセージがあり、心に語りかけ、響くものを受け止めて味わいましょう」と答えられました。また霊操の実践について、「霊性センターせせらぎ」や柴田潔神父の霊操講座が紹介された他、「この教会の神父がやっていることは広く言えば全て霊操であり、聖書の言葉を深く味わい、自分で回答を見出していくのは霊操の精神」との言葉がありました。

聖フランシスコ年

教皇レオ十四世により、2026年はアッシジの聖フランシスコ没後800年を記念する「聖フランシスコ年」とされています。教皇はフランシスコ会に宛てた手紙の中で、「平和が神のすべての善の総和であり、いと高きかたから降るたまもの」であり、聖フランシスコが告げる平和は、「キリストご自身が天と地に響き渡らせた平和」であると述べ、「聖フランシスコ年の祈り」(右下)を贈りました。

待降節に当教会にも置かれる「馬小屋」は聖フランシスコに由来しています。キリストの足跡に倣う聖フランシスコは、グレッッチョ(イタリア)の洞窟に牛とロバ、干し草と飼料の葉を置いて、ベツレヘムでの主の降誕を再現。これが「馬小屋」の起源とされています。



▲グレッッチョ「馬小屋の洞窟」壁画

平和旬間(8月6～15日) アッシジの聖フランシスコの平和を求める祈り

神よ、わたしをあなたの平和の道具としてお使いください

憎しみのあるところに愛を

いさかいのあるところにゆるしを

分裂のあるところに一致を 疑惑のあるところに信仰を

誤っているところに真理を 絶望のあるところに希望を

闇に光を 悲しみのあるところに喜びをもたらすものとしてください

慰められるよりは慰めることを 理解されるよりは理解することを

愛されるよりは愛することを わたしが求めますように

わたしたちは 与えるから受け ゆるすからゆるされ

自分を捨てて死に 永遠のいのちをいただくのですから

聖フランシスコ年の祈り

わたしたちの兄弟である聖フランシスコ

あなたは800年前に平和の人として

姉妹である死に会いに行きました

主のみ前でわたしたちのために執り成してください

あなたはサン・ダミアノの十字架のキリストのうちに

まことの平和を見いだしました

十字架のキリストのうちに すべての壁を打ち壊す

和解の源泉を求めることを教えてください

あなたは武器をもたずに 戦争と無理解の境界を通りました

世が国境を築くところに橋を架ける勇気をわたしたちに与えてください

紛争と分裂に苦しむこの時代に

平和を実現する者となることができるように執り成してください

わたしたちがキリストからもたらされる 武器のない

武器を取り除く平和の証人となれますように

アーメン

教会活動連絡会便り

宣教と祈りの連絡会

ミッシンとシノドスから

生まれた歩み

当連絡会は、2016年に始動した宣教司牧方針「ミッシン2030」の精神と、2021年から24年にかけて全世界の教会が歩んだ「シノドス」の体験が融合し、必然的な実りとして誕生しました。

ミッシン2030が掲げる「祈りを深める」「福音を伝える(宣教)」という、従来別々に機能しがちだった活動を一つの連動したものと捉え、それぞれ独自の歴史と特色を持ちながら、宣教と祈りを実践する10のグループで構成しています。

アルペ神父の列聖を祈る会

2025年結成の新しいグループです。ペドロ・アルペ神父の生涯や霊性を学び、言葉と行いによって信仰を証しできるよう、黙想会や講演会を行っています。信徒と

アルペ神父をつなぐ架け橋となつて、神父の列福・列聖に向けて歩んでいきます。

祈りを深めるグループ

ミッシン2030の柱の一つ「祈りを深める」の取り組みを継承し、「聖体礼拝」「聖書通読」「聖歌を歌おう」「祈りのとりなし隊」「ラビリンスウォーク」を通して、参加者がそれぞれの方法で日々の生活に祈りを取り入れられるよう活動しています。第一土曜日の聖体礼拝では、「司祭・修道者の召し出しを願う祈り」も捧げています。

オルガンと祈り

「祈りによって始めたことは祈りによって刈り取る」という思いを胸に、パイプオルガンの響きを通してともに祈り、歌い合う集いを年4回ほど開催しています。オルガン維持と未来へのつながりを求めて広く発信しており、今後の予定として【10月12日(月・祝)13時:オルガン演奏と見学ツアー(パイプ数3146本、49ストップを

備える演奏台と内部構造の見学)】、【11月11日(水)19時:諸聖人を祝つて主にあつて喜べ】を開催します。どうぞご参加ください。

真和会

第二バチカン公会議の改革を受け、1972年に発足しました。あらゆる枠を超えて社会に奉仕するセクターとしての役割を担い、信者・未信者を問わず多くの方に福音を伝えるため、54年間にわたり288回の講演会を開催してきました。メンバー同士が支え合い、教会の発展のために尽力しています。

水曜会

1980年に設立され、46年目を迎える信仰を深める会です。『毎日のミサ』(冊子)を用いた神父の講話や分かち合い、聖歌の歌唱を月2回行っています。長年、宣教と奉仕に尽力してきた信徒が多く集い、互いの絆を深めながら、初めて参加する方々も温かく迎え入れています。

宣教パウロ会

将来的に信徒だけでも要理講座を担えるようにという方針のもと、当時の主任

司祭の推薦者によって結成されました。3年間の学びと黙想会を経て奉仕を開始し、受洗者と教会をつなぐという目的を果たすため、8名のグループ員が福音宣教のあり方を模索しながら毎週の講座を継続しています。

壮年会

旧聖堂時代から続く30歳以上の男性の会です。日曜日朝のミサの聖堂係や、復活祭などの大きな教会行事における警備といった奉仕活動を担っています。毎月、定例会では「マリア会」と合同で担当司祭の講話や、会員同士の深い分かち合いを行っており、現在は新たな会員の拡大を目指しています。

マリア会

1949年の献堂間もなく発足した歴史ある女性の会です。マリアさまの心をお手本に、主日ミサの聖堂係やイースターエッグの作成・配布などの奉仕のほか、定例会でのロザリオの祈りや分かち合い、生き生きとした老後の準備のための「終活セミナー」など、和と助け合いを大切に活動しています。

メンズクワイア

2016年に活動を開始

した男声合唱グループです。月1回程度集まり、グレゴリオ聖歌や男声合唱曲にゆったりと取り組んでいます。今後は教会内の活動に奉仕する機会創出を目指します。

ロザリオの祈り会

2019年にスタートし、「司祭のための祈り」と「教会のために召し出しを願う祈り」を意向に掲げています。マリアさまを通じて神と対話する場であり、ロザリオの祈りに続いて司祭・神学生から「聖書と典礼」の講話をいただいています。現在、他教会の方とともに祈るつながりを模索しています。

100周年プランを

支える道先案内

2036年の創立100周年に向けた「100周年プラン」を策定・実践していくなかで、各グループが「祈りと識別」を原動力として横につながりました。対話のプラットフォームとなることで、教会が常に現代社会の課題へと目を向け、「外へ向かう教会」であり続けるための道先案内人としての役割を果たしていきます。



Family of St. Ignatius

～インドネシア共同体から～

インドネシア・カトリック東京共同体 (KKIT)

島国インドネシアのように、多様性の中で心の一致を保つことは大きな挑戦です。この理念を具現化することこそが、KKITの信仰生活における祈りです。

KKITが向き合う多様性とは民族の違いだけでなく、メンバー個々の多様な人生の歩みのことです。結婚や出産、就職や転職、入学や帰天など、各自のライフステージの変化こそが奉仕の現場です。メンバーの入れ替わりが激しい中でも、私たちは祈りの力に支えられ、それぞれが

派遣される場所(散らばる先)へ向かう志を整えています。これまでの世話役に深く感謝し、新しい世話役への引き継ぎが円滑に進むよう祈っています。今後も聖霊の導きに忠実に従い、聖イグナチオ教会の共同体とともに、世代交代における神さまの恵みと新たな創造を証しする「旅する教会」であり続けられますように。

●病者のための聖体奉仕●

私たち「病者のための聖体奉仕者」は、ご高齢・ご病気などで教会にいらっしゃれない方に、神父様に代わって、月に一度程度ご自宅、病院、施設などを訪問し、ご聖体をお届けしています。お一人でも多くの方と、ご聖体のお恵みを分かち合うことができれば幸いです。

ご希望の方は、教会事務室よりお申込みください。なお、お届けは聖イグナチオ教会に所属されている信者の方に限らせていただきます。また、事情によってはお届けが難しい場合もありますことをご了承ください。

病者のための聖体奉仕者

●あしたのいえプロジェクト●

活動報告会&講演会のご案内

日 時：10月3日(土) 13:30～15:00 ヨセフホール
前半『2025年を振り返って～教会×福祉ができること～』
(あしたのいえプロジェクト)

後半『スポーツ・文化活動からはじまるホームレス支援』
(特定非営利活動法人ビッグイシュー日本 三井泰平氏)

お申込み：講演会のチラシをご参照いただくか、「あしたのいえ」に直接お問い合わせください。

お問合せ：03-3263-4584 月・水・金曜日11～19時
ご参加お待ちしております！

●財務報告●

6月28日(日)「聖ペトロ使徒座への献金」1,611,481円は教皇様の活動のために捧げます。

●献血のお知らせ●

日 時：9月20日(日)

場 所：ヨセフホール

日本赤十字社による献血(第5回)を行いますので、ご協力ください。

詳しくはポスター、チラシでお知らせします。

●教会の夏休み●

教会案内所 8月9日(日)～15日(土) 夏休み
信徒会館 8月1日(土)～31日(月) 19時閉館
告解 8月15日(土)～8月28日(金) 休み
クリプタは平常通り(9時～16時) お参りできます。

8月の典礼と行事

2 (日) 年間第18主日	日曜サロン 11:00~12:30 ヨセフホール
6 (木) 主の変容の祝日	日本カトリック平和旬間(6日~15日)
7 (金) 初金曜日	祈りの集い 19:00
9 (日) 年間第19主日	教会案内ツアー ①10:30 ②11:00 受付9:30~
15 (土) 聖母被昇天の祭日	平和祈願ミサ 7:00 10:00 12:00(英語) 19:30(ベトナム語) 18:00(主日のミサ)
16 (日) 年間第20主日	
19 (水)	クリプタに安置され8月に命日を迎える方々のためのミサ 12:00
23 (日) 年間第21主日	日曜サロン 11:00~12:30 ヨセフホール
30 (日) 年間第22主日	

9月の典礼と行事

1 (火)	すべてのいのちを守るための月間 10月4日まで
4 (金) 初金曜日	
5 (土)	防災訓練 18:00ミサ後
6 (日) 年間第23主日	被災訓練 各ミサ後(スペイン語は20日に) ミサがわかるセミナー 13:00 ヨセフホール「ことばの典礼」 講師:高祖敏明神父 被造物を大切に世界祈願日
9 (水)	傾聴ルーム 11:15~15:00 ヨセフホール 水曜ティーサロン 12:00ミサ後
13 (日) 年間第24主日	子どもとともにささげるミサ 10:00 教会案内ツアー ①10:30 ②11:00 受付9:30~
14 (月) 十字架称賛の祝日	
16 (水)	クリプタに安置され9月に命日を迎える方々のためのミサ 12:00
19 (土)	新受洗者と代父母のためのフォローアップ講座 15:00 ヨセフホール
20 (日) 年間第25主日	防災訓練 スペイン語ミサ後 祖父母と高齢者のための世界祈願日 献血(日本赤十字社) 受付10:00~10:30/12:00~16:30 ヨセフホール
27 (日) 年間第26主日	日曜サロン・ミニオリエンテーション(受け皿) 11:00~12:30 ヨセフホール 教会活動連絡会議 13:00 ヨセフホール 世界難民移住移動者の日・献金

*最新情報は聖イグナチオ教会ホームページでご確認ください。

*マジス 10月号は10月4日(日)発行予定です。

●宣教司牧評議会からのお知らせ●

(7月2日開催)

- ・6月6日(土)毎年恒例の教会大掃除を実施いたしました。英語圏、ベトナム共同体、スペイン語圏、ポルトガル語グループの方々も含め160名以上の信徒の皆さまにご参加いただきました。ご協力に感謝いたします。
- ・6月14日(日)防災インストラクター早川英樹氏による防災セミナーが開催され、年次報告会に引き続き、多くの皆さまにご参加いただきました。
- ・防犯対策の一環として、主聖堂内陣と会衆席の間に仕切りを備えることにいたしました。
- ・教会学校ファミリーデーを10月4日(日)に開催いたします。英語・ベトナム語・日本語の教会学校の子どもたちとそのご家族がゲームや祈りなどを通じて交流する初めての試みです。詳しくはポスター、チラシをご覧ください。
- ・教会祭を10月25日(日)に開催いたします。国際ミサ(主聖堂)、各国フードコート、パフォーマンス(ヨセフホール)を予定しております。

【地震支援募金のご報告】

*フィリピン・ミンダナオ島地震支援募金

募金総額 970,847円 (6/13・14実施)

ミンダナオ島を拠点とするノートルダム修道女会設立の財団(OND Hesed Foundation Inc.)に98万円を送金いたしました。

*ベネズエラ地震支援募金

募金総額 1,119,766円 (7/4・5実施)

カリタス・ベネズエラに7,000ドル(USD)を送金いたしました。

差額(端数)および為替手数料などは教会が負担し、皆さまの募金は全額支援に充てております。

皆さまの温かいご支援に感謝いたします。

主任司祭：高祖 敏明
 助任司祭：ボニー・ジェームス
 グエン・タン・ニャー
 サトルニノ・オチョア
 柴田 潔
 協力司祭：ハビエル・ガラルダ
 グエン・ヴァン・テー
 関根 悦雄
 マヌエル・シルゴ
 作道 宗三
 神学生：アントニオ・マリオ・ダ・
 コスタ・ソアレ
 シスター：フロール・フロレセ
 ジェスリン・ブエンディア
 デイン・グエン・ゴック・
 トウエン
 カタリナ・パディジャ

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

ミサの時間

【平日】主聖堂

7:00/12:00/18:00

【土、日曜日】主聖堂

土曜 18:00/19:30 (ベトナム語)

日曜 7:00/8:30/10:00/18:00

12:00 (英語) / 13:30 (スペイン語) /

15:00 (ベトナム語)

【土曜日】マリア聖堂

17:30 (英語)

【月の第1日曜日】マリア聖堂

13:30 (ポルトガル語) / 16:00 (ポーランド語)

【月の第2・4日曜日】マリア聖堂

16:30 (インドネシア語)

『マジス』へのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。

カトリック麴町教会
(聖イグナチオ教会)

〒102-0083

千代田区麴町6-5-1

TEL 03-3263-4584

FAX 03-3263-4585

http://www.ignatius.gr.jp



Linktree (リンクツリー)



音訳 Magis